

「人口動態調査」

去る7月11日、総務省は2018年1月1日時点での人口動態調査結果を発表しました。それによりますと、日本人の人口は前年比で37万人余り減少の1億2,520万9,603人で、減少幅は調査を開始した1968年以降最大となりました。

1. 「人口動態調査」とは？

人口動態調査とは、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の各事象について、各市町村が毎月、住民基本台帳に基づいて人口動態調査票を作成します。日本における日本人及び外国人、外国における日本人について調査しています。それを厚生労働省が収集し集計したものを人口動態統計といい、そのうち、日本における日本人についてまとめたものが人口動態統計月報（概数）で、同月報に修正を加えたものが人口動態統計年報（確定数）です。

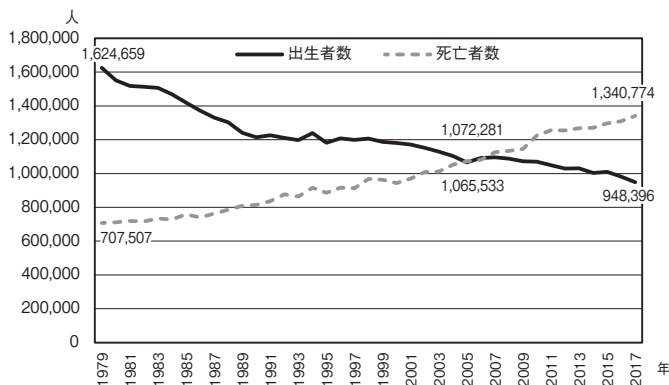
2. 人口はますます減少？

冒頭に述べたとおり、1月1日現在の日本人の人口は前年比374,055人減少した1億2,520万9,603人で、人口減少は9年連続となりました。出生者数948,396人に対し死亡者数は1,340,774人と、死亡者数が出生者数を初めて上回った2005年以降、その差は毎年拡大し、本年は約40万人となっています（図表1参照）。

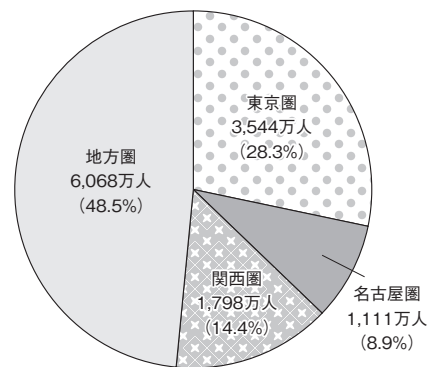
一方、東京・名古屋・関西の3大都市圏の人口は6,453万人となり過去最高を更新しています（図表2参照）。ただし、人口が増加したのは東京圏だけで、名古屋圏及び関西圏は減少しています。

人口減少が大きな社会問題となって久しい感があります。その主要因である「少子高齢化」に歯止めがかからない状況ですが、地方に比べて物価や住居費などが高く、子育てが大変な首都圏に人口が集中し、人口減少がさらに深刻化していく恐れがあります。政府は2060年に人口1億人程度を維持するとの目標を掲げ、人口の東京一極集中の是正に取り組んでいますが、現時点では十分な効果が出ているとはいえない状況です。出産や子育てについて、さらなる環境整備が強く求められています。

図表1 出生者数と死亡者数の推移



図表2 3大都市圏と地方圏の人口



総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態および世帯数」

閑話ひとつ

- ▶ AI、フィンテック、ブロックチェーン、量子コンピュータ等の単語を3、4年前はほとんど見ることはなかったですが、今では新聞・雑誌等のメディアに溢れています。
- ▶ 今から約2年前の2016年10月、世界経済フォーラム（通称ダボス会議）会長のクラウス・シュワブ氏の講演で聞いた話を思い出します。曰く、「第四次産業革命は第三次産業革命の延長線上にあるわけではない。すごいスピードで雪崩のように生物的・物理的デジタルな融合が起こる。スピードが速すぎて誰も何が起こるか解らない。」と。
- ▶ ご覧になった方も多と思いますが、7月末の土曜日に放送されたNHKスペシャル「追跡!! アインシュタインの脳～失われた天才脳の秘密に迫る～」は見ごたえがありました。まさかアインシュタインの脳が240個に切り分けられて保存（行先不明も有り）されていたとは。
- ▶ スマホも苦戦しながらやっといじっている小生としては、「アインシュタインの脳の構造が解明され、第四次産業革命で誰でも賢い脳になる時代が来るかも。」と一瞬期待してしまいました。「シンギュラリティ」ではありませんが、これはこれで怖い話です。（TA）